臨床場面において用いられている心理テストの現況

名島　潤慈

The Current State of Psychological Tests Used in Clinical Settings

NAJIMA Junji
（Received August 5, 2010）

キーワード：心理テスト、臨床場面

はじめに

心理テストは言うまでもなく、臨床場面における心理アセスメント（心理査定）において重要な役割を果たすものである（名島，2010）。臨床心理士をも含めて、現在の心理臨床家はさまざまな心理テストに遭遇するし、また、さまざまな心理テストを用いるよう関連スタッフから要請される。心理臨床家が関係する心理テストの種類や数が増加しているのは、心理臨床家が働く職場がさまざまに拡大していることと無関係ではない。

ところで、筆者は毎年、大学院修士１年生の「臨床心理査定」の授業において、臨床心理士を目指している院生たちに対して心理テストの講義やテスト実習を行っているが、近年の心理テストの種類の多さにはとまどいを感じることがある。本稿では、主として精神医学・臨床心理学系の学会誌や大学の臨床心理センターの紀要などから、また、さまざまな臨床場面で働いている臨床心理士に対して筆者がこれまで実際にスーパーヴィジョンを行った経験や筆者自身の臨床経験から、今日の臨床場面において実際に使用されている心理テストを摘出し、全体的に整理してみたい。なお、合計100以上にもなる心理テストそれぞれについての文献をすべて列挙すると膨大なものとなるので、本論文末尾の参考文献では、市販されているテストマニュアル以外のもののみを掲げてある。

１．心理テストの種類とテスト名

表１は、知能・記憶・認知関係のテストである。テスト名とテストの適応対象年齢、備考を記してある。表２は、パーソナリティ関係のテストで、質問紙法・作業検査法・投映法の各テスト名を掲げてある。表３は発達関係のテスト名、表４は職業興味・適性関係のテスト名、表５は自閉症関係のテスト名、表６は失語症関係のテスト名、表７は脳卒中関係のテスト名、表８はその他のものである。ただし、これらの表のテストのなかには、心理テストの範疇に入らないものもある。

表１のなかの「三宅式記銘力検査（東大脳研式記銘力検査）」について注釈しておくと、

表１　知能・記憶・認知関係のテスト

改訂版　鈴木ビネー知能検査	2歳～18歳11か月	[Alfred Binet と Théodore Simon の原法を元に鈴木治太郎が作成]
田中ビネー知能検査Ｖ	2歳～成人	[Alfred Binet と Théodore Simon の原法を元に田中寛一が作成]
新田中Ｂ式知能検査	小学生～成人	集団式知能テスト［発達段階に応じて，低 B，中 B，高 B, 1B, 2B, 3B の型式あり］
WIPPSI（ウィプシー）	3歳10か月～7歳1か月	Wechsler Preschool and Primary Scale of Intelligence
WISC－Ⅲ（ウィスクスリー）	5歳~16歳11か月	Wechsler Intelligence Scale for Children-Third Edition
WAIS－Ⅲ（ウエイススリー）	16歳～89歳	Wechsler Adult Intelligence Scale-Third Edition
WMS－Ⅲ（ウエクスラー記憶検査）	16歳～74歳11か月	Wechsler Memory Scale- Third Edition
K－ABC（日本版 K－ABC 心理教育アセスメントバッテリー）	2歳 6 か月~12歳11か月	Kaufman Assessment Battery for Children
大脇式盲人用知能検査	6歳～成人	［大脇義一が作成］
PBT（教研式ピクチャー・ブロック知能検査法）	4歳～7歳	Picture Block Intelligence Test
ITPA（ITPA 言語学習能力診断検査 1993 年改訂版）	3歳～9歳11か月	Illinois Test of Psycholinguistic Abilities
HDS－R（改訂長谷川式簡易知能評価スケール）	成人	Hasegawa's Dementia Scale-Revised［長谷川和夫が作成］
国立精研式認知症スクリーニングテスト	成人	Screening Test for Dementia of National Center of Neurology and Psychiatry
MMSE（ミニ・メンタル・ステイト）	高齢者	Mini-Mental State Examination
N 式精神機能検査	高齢者	Nishimura Dementia Scale［西村健が作成］
N 式老年者用精神状態評価尺度（NM スケール）*1	高齢者	［小林敏子らが作成］
ADAS J-cog.（アルツハイマー病評価スケール認知機能下位検査日本版）*2	6歳～高齢者	Alzheimer's Disease Assessment Scale-cognitive component-Japanese version
JART（ジャート）（知的機能の簡易評価）	成人	Japanese Adult Reading Test
MEDE 多面式初期痴呆判定検査	成人	Multiphasic Early Dementia Examination
日本語版 COGNISTAT 認知機能検査	成人～老人	[Cognistat は以前の Neurobehavioral Cognitive State Examination]
BACS-J（統合失調症認知機能簡易評価尺度　日本語版）	青年・成人	Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia. Japanese version
BVRT（ベントン視覚記銘検査）	成人	Benton Visual Retention Test
三宅式記銘力検査（東大脳研式記銘力検査）	成人	Miyake's Paired Verbal Associate Learning Test

RBMT（日本版リバーミード行動記憶検査）	3歳～10歳	Rivermead Behavioural Memory Test
MMS言語記憶検査	高齢者	Meaningful and Meaningless Syllable Memory Test
CDT（時計描画テスト）	45歳以上	Clock Drawing Test
DN-CAS（DN-CAS認知評価システム）	5歳～17歳11か月	Das-Naglieri Cognitive Assessment System
DAM（グッドイナフ人物画知能検査）*3	3歳～10歳	Goodenough Draw-A-Man intelligence Test
RCPM（レーヴン色彩マトリックス検査）*3	45歳以上	Raven's Coloured Progressive Matrices
コース立方体組み合わせテスト*3	8歳～成人	Kohs Block Design Test
FAB（前頭葉機能検査）*4	高齢者	Frontal Assessment Battery at bedside
WCST（ウイスコンシン・カード分類検査）*4	成人	Wisconsin Card Sorting Test
CAT（標準注意検査法）*5	成人	Clinical Assessment for Attention

＊1高齢者本人の日常生活での行動観察を通して評価するもの。＊2アルツハイマー型認知症の、記憶を中心とする認知機能テスト。＊3知的能力を測定する非言語性テスト。＊4遂行機能の障害を見る。＊5脳損傷者に見られる注意の障害を検出する。

表2　パーソナリティ関係のテスト

Y－G（矢田部ギルフォード性格検査）	小・中・高・一般用	[Joy Paul Guilford の原法を元に矢田部達郎らが作成]
CMI（日本版コーネル・メディカル・インデックス）	14歳～成人	Cornel Medical Index
MMPI（ミネソタ多面的人格目録）	15歳～成人	Minnesota Multiphasic Personality Inventory
改訂版INV（精研式パーソナリティ・インヴェントリィ）	14歳～成人	Seikenshiki Personality Inventory
MJPI（法務省式人格目録）	少年	Ministry of Justice Personality Inventory
UPI（UPI学生精神的健康調査）	大学生	University Personality Inventory
GHQ（精神健康調査票）	12歳～成人	General Health Questionnaire
新版TEGⅡ（東大式エゴグラム）	15歳以上	Tokyo University Egogramm-New Version
PIL（PILテスト日本版）	15歳～成人	Purpose In Life Test
日本版MPI（モーズレイ性格検査）	16歳～成人	Maudsley Personality Inventory
日本版 BDI－Ⅱ（ベック抑うつ質問票）	13歳～80歳	Beck Depression Inventory-Second Edition
SDS（Zungの自己評価式抑うつ尺度）	16歳～成人	Zung's Self-rating Depression Scale
CES－D Scale（うつ病[抑うつ状態]自己評価尺度）	15歳以上	Center for Epidemiologic Studies-Depression Scale
KDI（笠原うつ病スケール）	青年・成人	Kasahara's Depression Inventory
GDS（老年期うつ病尺度短縮版）	老人	Geriatric Depression Scale（Short Form）
SCAS-JR（日本語版スペンス児童用	8歳～12歳	Spence Children's Anxiety Scale Japanese

不安尺度改訂版）		version revised edition
MAS（顕在性不安尺度）	16 歳以上	Manifest Anxiety Scale
CMAS（児童用顕在性不安尺度）	小４～中３	Children's Manifest Anxiety Scale
CAS（キャッテル不安尺度）	中学生～成人	Cattle Anxiety Scale
新版 STAI（状態・特性不安検査）	18 歳以上	State-Trait Anxiety Inventory
社交不安障害検査	15 歳以上	Social Anxiety Disorder Scale
日本版 POMS（ポムス）	15 歳以上	Profile of Mood States
TSCC（日本版子ども用トラウマ症状チェックリスト）	8 歳～15 歳	Trauma Symptom Checklist for Children
ASSESS（６領域学校適応感尺度）	小・中学生	Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres
内田クレペリン精神検査	幼児・児童・標準型（中学以上）	Uchida-Kraepelin Psychodiagnostic Test
精研式 SCT（文章完成法）	小・中・成人用	Sentence Completion Test
K－SCT（構成的文章完成法）	高校生以上	[片口安史が作成]
MJSCT（法務省式文章完成法）	少年	Ministry of Justice Sentence Completion Test
TST（20 答法）	小学生～成人	Twenty Statement Test
P－F スタディ（絵画欲求不満テスト）	児童・青年・成人用	Rosenzweig Picture-Frustration Study
バウムテスト	幼児～成人	Baumtest, Tree-Drawing Test
黒－色彩バウムテスト	幼児～成人	Black-Color Tree Test
DAP（人物画）	幼児～成人	Draw-A-Person Test
母子画	幼児～成人	Mother-and-Child Drawings
HTP（家–木–人テスト）	15 歳以上	House-Tree-Person Technique
S－HTP（統合型 HTP 法）	幼児～成人	Synthetic H-T-P Technique
WZT（ワルテッグ描画テスト）	児童～成人	Wartegg-Zeichentest
KFD（動的家族描画法）	児童～成人	Kinetic Family Drawing
KSD（動的学校画）	4 歳～成人	Kinetic School Drawing
ロールシャッハテスト	幼児～成人	Rorschach Test
CAT（子ども用主題統覚検査）	3 歳～9 歳	Children's Apperception Test
TAT（主題統覚検査法）	10 歳～成人	Thematic Apperception Test
SAT（高齢者用主題統覚検査）	65 歳以上	Senior Apperception Test
MAPS	6 歳～65 歳	Make A Picture Story
ハンドテスト	5 歳～成人	Hand Test
ブラッキー絵画テスト	5 歳以上	Blacky Pictures
ソンディテスト	3 歳以上	Szondi Test

表３　発達関係のテスト

新版 K 式発達検査 2001[*6]	0 歳～成人	Kyoto Scale of Psychological Development 2001
遠城寺式乳幼児分析的発達検査法九大小児科改訂版	0 歳～4 歳 8 か月	［遠城寺宗徳らが作成］
増補　乳幼児精神発達診断法	0 歳～3 歳	［津守真・稲毛教子が作成］

乳幼児精神発達診断法	3歳～7歳	［津守真・磯部景子が作成］
JMAP（日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査）	2歳9か月～6歳2か月	Japanese version of Miller Assessment for Preschoolers
PVT－R（改訂版絵画語い発達検査）	3歳～12歳3か月	Picture Vocabulary Test-Revised
DTVP（フロスティッグ視知覚発達検査）	4歳～7歳11か月	M. Frostig Developmental Test of Visual Perception
国リハ式＜S－S＞法言語発達遅滞検査（改訂第4版）	2歳～12歳	National Rehabilitation Center for the Disabled's ＜ S-S Test ＞ for Language-Retarded Children with the Sign-Significate Relations
MCCベビーテスト	0歳2か月～2歳6か月	Baby Test for Mother-Child Counseling［古賀行義が作成］
KIDS（キッズ）（乳幼児発達スケール）	0歳1か月～6歳11か月	Kinder Infant Development Scale［タイプA, B, C, Tあり］〔三宅和夫らが作成〕

＊6　1歳半検診・3歳児検診でも多く用いられている。

表4　職業興味・適性関係のテスト

GATB（厚生労働省編一般職業適性検査改訂新版）	15歳～45歳	General Aptitude Test Battery
VPI（職業興味検査第3版）	大学生～社会人	Vocational Preference Inventory
VRT（職業レディネス・テスト第3版）	中学生～大学生	Vocational Readiness Test

表5　自閉症関係のテスト

PEP-3（日本版自閉症・発達障害児教育診断検査［三訂版］）	2歳～12歳	Psycho-educational Profile-Third Edition.
AQ（自閉症スペクトラム指数児童用・日本語版）	7歳～15歳	Autism-Spectrum Quotient Japanese Children's Version
AQ（自閉症スペクトラム指数・日本語版）	青年期後期以上	Autism-Spectrum Quotient Japanese Version
精研式CLAC 自閉症行動チェックリスト	幼児～13歳	Check List for Autistic Child［一般用のCLAC－Ⅱと行動療法用のCLAC－Ⅲあり］
新装版CARS（カーズ）（小児自閉症評定尺度）	2歳以上	Childhood Autism Rating Scale
PARS（パーズ）（広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度）	幼児～思春期	Pervasive Developmental Disorders Autism Society Japan Rating Scale
日本語版M-CHAT	1歳半～3歳未満	Modified Checklist for Autism in Toddlers

表6　失語症関係のテスト

WAB（WAB失語症検査日本版）	成人失語症者	Western Aphasia Battery
DDA（東京都老人総合研究所版失語症鑑別診断検査）	成人失語症者	Differential Diagnosis of Aphasia
SLTA（標準失語症検査）	成人失語症者	Standard Language Test of Aphasia

表７　脳卒中関係のテスト[*7]

FIM（機能的自立度評価表日本語版）	7 歳以上	Functional Independence Measure
JSS（日本脳卒中学会・脳卒中重症度スケール調査票・急性期　第５版）	脳卒中患者	Japan Stroke Scale
JSS－M（日本脳卒中学会・脳卒中運動機能障害重症度スケール調査票）	脳卒中患者	Japan Stroke Scale（Motor Function）
JSS－H（日本脳卒中学会・脳卒中高次脳機能スケール）	脳卒中患者	Japan Stroke Scale（Higher Cortical Function）
JSS－D（日本脳卒中学会・脳卒中うつスケール）	脳卒中患者	Japan Stroke Scale（Depression Scale）
JSS－E（日本脳卒中学会・脳卒中情動障害スケール）	脳卒中患者	Japan Stroke Scale（Emotional Disturbance Scale）
JSS－DE（日本脳卒中学会・脳卒中うつ・情動障害同時評価表）	脳卒中患者	Japan Stroke Scale（Depression and Disturbance Scale）

＊7　表中のFIM, JSS, JSS-M, JSS-Hは心理テストには属さない。

表８　その他のテスト

新版Ｓ－M社会生活能力検査	1 歳~13 歳	Social Maturity Scale
BGT（ベンダー・ゲシュタルト・テスト）[*8]	5 歳～10 歳, 11 歳～成人	Bender Gestalt Test
VPTA（標準視知覚検査）	成人	Visual Perception Test for Agnosia
BIT（BIT 行動性無視検査日本版）	成人	Behavioural Inattention Test
CAS（標準意欲評価法）[*9]	成人	Clinical Assessment for Spontaneity

＊8　脳損傷を検出するための神経心理学的テスト。パーソナリティテストとしても用いられる。
＊9　脳損傷者に見られる意欲や自発性の低下を検出する。

三宅式記銘力検査はもともと、三宅鑛一と内田勇三郎によって1923年に発表された聴覚性言語性対連合記憶のテストである。ずっと以前に考案されたテストなのであるが、現在でも精神科などで、記銘力障害（認知症など）を疑われる患者に対して使用されている。ただし、現行の三宅式記銘力検査は三宅・内田によるオリジナルなものとは内容が少し異なっており、その正式名は東大脳研式記銘力検査なのであるが、慣習的に三宅式記銘力検査と呼ばれている（詳細は滝浦，2007を参照）。また、表２のパーソナリティテストについて言えば、投映法、それも描画形式による投映法（いわゆる「描画法」と呼ばれているもの）に属するテストには数多くのものがあり、しかも、ある一つのテストに関する変法も数多くあったりする。描画法の詳細については表２のなかに書ききれないので、これまで筆者らがまとめた研究や概観を参照されたい（名島，2004ab；名島ら，2001，2004，2005，2006；藤井ら，2009）。

知能テスト・パーソナリティテスト・発達テストなどと並んで、近年、種々の神経心理学的テストが注目されている。これは、頭部外傷（交通事故や転落事故による）や脳血管障害などによって引き起こされる高次脳機能の障害を同定・査定するためのテストである。高次脳機能の障害は具体的には、記憶や知識や計算力の障害、注意の障害、遂行機能の障害、社会的行動障害、失語・失行・失認症、半側空間無視、半側身体失認などであ

る。この神経心理学的テストには、種々の知能テスト、記憶（記銘力）テスト、注意テスト、前頭葉機能テストなどが含まれる。

２．臨床場面の違いとテスト

言うまでもなく、どのような心理テストが用いられるかは、それぞれの臨床場面によって異なってくる。例えば、リハビリテーション病院における心理士を取り上げてみる。人が脳卒中に襲われた場合、まず脳卒中に対する医学的治療がなされ、次いで、リハビリテーション病院に転院してリハビリを受けることになる。リハビリテーション病院における心理士の役割は、入院患者の心理的ケアや認知リハビリテーション、心理テストの施行などである。

リハビリテーション病院では、心理テストをも含めて、さまざまなテストや評価表・調査票が用いられている。もっぱら心理士が行うものもあるし、他職種のスタッフ（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など）が行うものもある。いずれにしろ、リハビリのための新しい患者が入院してきた場合には、しばらくしてからケースカンファレンスが行われるが、このケースカンファレンスでは他職種のスタッフが行ったテスト結果も提示されるので、心理士としてはそういったテストにも精通しておく必要がある。ケースカンファレンスで出てくるテストや評価表の名前を具体的に言えば、次のようなものである。

①介護負担度の評価が可能な「FIM」（機能的自立度評価表）。このFIMは、脳卒中に限らず、すべての疾患に適用可能である。②「HDS－R」（改訂長谷川式簡易知能評価スケール）や「MMSE」（ミニ・メンタル・ステイト）。これらは知的機能の簡便なスクリーニングテストなので、もしもこれらで知的機能の障害がうかがわれる場合には、「WAIS-R」（ウエクスラー成人用知能検査改訂版）や「WAIS-Ⅲ」を用いて知能構造を精査することになる。③「JSS」（日本脳卒中学会・脳卒中重症度スケール調査票（急性期）第５版）や「JSS－M」（日本脳卒中学会・脳卒中運動機能障害重症度スケール調査票）、「JSS－H」（日本脳卒中学会・脳卒中高次脳機能スケール）。これらは、脳卒中による障害の度合いをみるものである。④脳卒中後のうつ・うつ状態をみる「JSS－D」（日本脳卒中学会・脳卒中うつスケール）、さらに「JSS－E」（日本脳卒中学会・脳卒中情動障害スケール）、「JSS－DE」（日本脳卒中学会・脳卒中うつ・情動障害同時評価表）。⑤失語症関係の「WAB」（WAB失語症検査日本版）や「SLTA」（標準失語症検査）。⑥患者の合計６つの気分状態を見る「日本版POMS」（ポムス）など。

次に、精神科病院や総合病院の精神科に勤務する臨床心理士では、「田中ビネー知能検査Ⅴ」「WAIS-R」「WAIS-Ⅲ」などの知能テスト、「CMI」「バウムテスト」「S－HTP（統合的HTP）」「P－Fスタディ」「ロールシャッハテスト」といったパーソナリティテストがよく用いられる。主治医から特定のテストを依頼されることもある。入院患者の復職判定には、「内田クレペリン精神検査」や「ロールシャッハテスト」などが用いられる。

小・中・高校に勤務するスクールカウンセラーの場合にはカウンセリングやコンサルテーションの仕事が多く、また心理テストのための時間が十分にとりにくいこともあって、「バウムテスト」「S－HTP」「母子画」「KFD（動的家族描画法）」「KSD（動的学校画）」「DAP（人物画）」といった簡便な投映法が用いられることが多い。もちろん、どうして

も必要であれば知能テストや種々の自閉症関係のテストも用いられる。

大学の心理教育相談室や臨床心理センターでは大学院生のテスト実習の場ということもあって、種々のテストが用いられる。しかも、クライアントの年齢層も幼児から成人・老人までと幅広いので、テスト選択の幅も広くなる。もちろん、どのような心理テストが多く用いられるかは、大学によって異なるところがある（例えば昭和女子大学心理臨床相談室では、ウエクスラー式知能検査、つまりWISC-Ⅲ・WAIS-Ⅲを中心としたアセスメントトステムをとっている。佐藤ら，2010を参照）。

一般的に言えばこのように、心理臨床家が働く場によって必要とされる心理テストが異なってくる。心理臨床家としてはまず、大学院生のときにできるだけ多くの心理テストに触れておき、就職後、自分の働く場が必要とする心理テストを深く究明していくことになろう。

３．テスト・バッテリーの問題

数多くある心理テストをどのように組み合わせたらよいかということは、なかなかむずかしい問題である。精神科医が行う精神鑑定の補助として臨床心理士が心理テストを行う場合には数多くの知能テスト・パーソナリティテストなどを施行するだけの時間的な余裕があるが、通常の臨床場面では時間の制約があって数種類のものを組み合わせることが多い。

数多くの心理テストのなかから実際にどのようなテストを選び出すかは、クライアントの年齢や臨床像・病態によって異なってくる。表９は、テストのねらいと具体的なテスト名とを組み合わせたものである。テストを選択する際の一つの参考とされたい。

ちなみに、心理テストの用具がまったく手元にない場合でも、質問形式によるテストは可能である。例えば、①児童精神科医の Kanner（1957）が考案した「Three Wishes」（神様があなたの願いを三つかなえてくれるとしたら何をお願いしますか）、②作者不詳の「転生願望法」（あなたが動物に生まれ変わるとしたらどんな動物になりたいですか）、③筆者が考案した「真珠採り」（あなたは海底で真珠貝を採っています。海の上の小舟には手動の空気ポンプがあって、そこからあなたにパイプで空気が送られています。あなたは空気ポンプを押してくれる役を誰に頼みますか）といった投映法式の質問はごく簡単に施行でき、かつ侵襲性も低い。また、インテイク面接の段階でクライアントが最近見た印象夢（印象に残っている夢）を聞いてみると、クライアントの心理・社会的危機の様態を理解する手がかりになる。記憶力を簡単に見るには、数字を復唱してもらう「Digit Span」（順唱は普通７桁まで、逆唱は５桁まで可能）が施行可能である。なお、テスト用具がなくても白紙と鉛筆さえあれば、「バウムテスト」「自画像」「S－HTP」「母子画」といった投映描画法が可能である。

クライアントの心的世界を理解することは臨床心理士の重要な仕事なのである。また、虐待やいじめ、裏切りといった悪性の対人体験を重ねてきたクライアントにとって、臨床心理士がクライアントの心的世界を深く理解しようとする姿勢を示すことは、結果としてクライアントのセルフ・エスティーム（self-esteem）や自己尊敬（self-respect）を高めることにも貢献することになろう。

表９　一般的なテスト選択

テストの狙い	選択されるテスト例
子どものパーソナリティ	DAP, バウム, CAT*10, KSD, P-F スタディ, ロールシャッハ, WZT, TST
青年・成人のパーソナリティ	YG, バウム, S-HTP, ロールシャッハ, TAT, K-SCT, P-F スタディ, 日本版 MPI, WZT, TST
高齢者のパーソナリティ	PIL, バウム, ロールシャッハ
家族関係	FDT, KFD, 動物家族描画法, 母子画
精神医学的パーソナリティ特性	MMPI, 改訂版 INV
自我状態	新版 TEG Ⅱ
全般的な身体的・精神的愁訴	CMI, GHQ, UPI
不安	MAS, CMAS, 新版 STAI, CAS, SCAS-JR
うつ・うつ状態	SDS, 日本版 BDI-Ⅱ, CES-D Scale, KDI, GDS
神経症傾向	CMI
認知症・認知機能関係	HDS-R, MMSE, JART, CDT, N 式老年者用精神状態評価尺度, 国立精研式認知症スクリーニングテスト, ADAS J-cog., BACS-J, DN-CAS
記憶力関係	WMS-Ⅲ, 三宅式（東大脳研式）記銘力検査, RBMT, BVRT
知能・知能構造	WIPPSI, WISC-R, WISC-Ⅲ, WAIS-Ⅲ, 田中ビネーV, 改訂版鈴木ビネー, DAM, コース立方体, K-ABC
発達の度合い・発達障害	新版 K 式, 国リハ式<S-S>法, 遠城寺式, PVT-R, MCC, KIDS, JMAP, 乳幼児精神発達診断法, 新版 S-M 社会生活能力検査
自閉症関係	PEP-3, AQ 児童用, AQ, CLAC-Ⅱ, CLAC-Ⅲ, 新装版 CARS, PARS, 日本語版 M-CHAT
脳損傷関係（脳卒中関係のものを含む）	CAT*10, CAS, BIT, BGS, TMT, WCST, JSS-D, JSS-E, JSS-DE
失語症関係	WAB, DDA, SLTA
職業興味・職業適性	GATB, VPI, VRT, 内田クレペリン精神検査
その他	TSCC, 日本版 POMS

*10　子どものパーソナリティの欄のCATはChildren's Apperception Test, 脳損傷関係の欄のCATはClinical Assessment for Attention。

４．心理テストを施行する際の留意点

心理テストを施行する際の一般的な留意点としては、「一般社団法人日本心理臨床学会倫理基準」（平成21年４月11日制定）の第３条によくまとめられている。この第３条では、「心理検査等の査定技法」という言葉が用いられている。表10にその条文を掲げる（表10には秘密保持に関する第６条をも含む）。

この第３条に見られるように、対象者（クライアント）ないし保護者への十分な説明と同意、大きな負担をかけるおそれがある場合には中止、得られる結果が対象者の援助に直接結びつかないような場合には中止、（求められた場合には）依頼者ないし対象者への結果の

表10　一般社団法人日本心理臨床学会倫理基準

[査定技法]

第３条　会員は、臨床業務の中で心理検査等の査定技法を用いる場合には、その目的と利用の仕方について、対象者に分かる言葉で十分に説明し、同意を得なければならない。この場合において、会員は、対象者が幼児若しくは児童又は何らかの障害のために了解が困難な者の場合には、これらの者の保護者又は関係者に十分説明した上でその同意を得なければならない。

２　会員は、査定技法が対象者の心身に著しく負担をかけるおそれがある場合、又はその査定情報が対象者の援助に直接に結びつかないとみなされる場合には、その実施は差し控えなければならない。

３　会員は、依頼者又は対象者自身から査定結果に関する情報を求められた場合には、情報を伝達することが対象者の福祉に役立つよう、受け取り手にふさわしい用語と形式で答えなければならない。測定値、スコア・パターン等を伝える場合も同様である。

４　会員は、臨床査定に用いられる心理検査の普及又は出版に際しては、その検査を適切に活用できるための基礎並びに専門的知識及び技能を有しない者が入手、又は実施することのないよう、その頒布の方法については十分に慎重でなければならない。

[秘密保持]

第６条　会員は、法律に別段の定めがない限り、対象者の秘密保持のために、他の関連機関からの照会に対して、又は対象者の記録の保存と廃棄等については、十分慎重に対処しなければならない。

２　会員は、対象者本人又は第三者の生命が危険にさらされるおそれのある緊急以外は、対象者の個人的秘密を関係者に伝えてはならない。この場合においても、会員は、その秘密を関係者に伝えることについて、対象者の了解を得るように努力しなければならない。

３　対象者の個人的秘密を保持するために、研修、研究、教育、訓練等のために対象者の個人的資料を公開する場合には、会員は、原則として、事前に当該対象者又はその保護者に同意を得なければならない。

４　前項の同意を得た場合においても、会員は、公表資料の中で当人を識別することができないように、配慮しなければならない。

分かりやすい伝達といった大変重要な事柄が述べられている。これらのことは、心理臨床のベテランにとってもついおろそかになりがちなことので、よくよく留意したい。

表10の第６条はクライアントの秘密保持全般に関するものである。今、話を心理テストに限定した場合、クライアントの了解なしにテスト結果（テスト記録を含む）を外部（関係者）に漏らしてはならないということになる。

第３条と第６条は、心理テストを行う際の要となるものである。もちろん、実際の臨床場面においては、ある心理テストを行うか中止するか、（治療面での重要な連携機関に）テスト結果を伝達するかしないかなど、いろいろと思い悩む事態が出てくる。そのような場合には、倫理基準の第３条のなかにある「対象者の福祉」という言葉が重要となろう。当事者であるクライアントの了解と言っても、十分に納得した了解からしぶしぶといった了解、ほとんど拒否に近いような了解まであるし、クライアント本人は了解しても保護者が反対するような場合もあって、心理臨床家としてはいろいろと思い悩むところであるが、そのような場合にこそ、いったいどのようにしたら「対象者の福祉」に最も役立つのであろうかという線に沿って考えてみることが大切となろう。

おわりに

本稿においては、現在の日本の臨床場面において実際に使用されている心理テストを各カテゴリー別に分類して掲げた。その際、テストの呼び名は最新のものになるよう注意した。合わせて、テスト･バッテリーの問題や、心理テストを施行するさいの留意点についても触れた。

ひと口に心理テストと言っても、その範囲も広く奥も深い。しかも、（変法をも含めて）新しい心理テストが次から次へと生まれているような状況である（これは特にアメリカにおいて著しい）。臨床心理士や臨床心理士以外の心理臨床家がこれらすべての心理テストを習得するのはきわめて困難であるし、また不可能でもあろう。特に、パーソナリティテストのなかの投映法に属するテストには、使いこなすのに何年もかかるようなテストが少なくない。

ただし、すべての心理テストを習得するのが不可能と言っても、最近はどのような心理テストが使われていて、それがどのようなものなのか、どんなことを狙っているテストなのかということを、心理臨床家としては絶えず勉強していく必要があろう。

引用・参考文献

藤井優子・山根望・河合可南子・切田祐子・澤谷拓哉・平峯朋子・名島潤慈（2009）：母子画に関する諸研究の概観，山口大学教育学部研究論叢，59，第３部，261-267.

Kanner, L.（1957）：*Child psychiatry. 3rd ed.* Springfield. Illinois: Charles C Thomas.（黒丸正四郎・牧田清志訳，1964，児童精神医学，医学書院）

加藤元一郎（2006）：標準注意検査法（CAT）と標準意欲評価法（CAS）の開発とその経過，高次脳機能研究，26(3)，76-85.

小山充道（編）(2008)：必携　臨床心理アセスメント，金剛出版.

名島潤慈（2004a）：心理アセスメントにおける黒－色彩バウムテスト・自画像・真珠採り・夢（1），山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，17，143-156.

名島潤慈（2004b）：心理アセスメントにおける黒－色彩バウムテスト・自画像・真珠採り・夢（2），山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，17，157-165.

名島潤慈・原田則代・横田周三・森田裕司・増田勝幸・植村孝子（2001）：バウムテスト.（上里一郎監修，心理アセスメントハンドブック　第２版，西村書店，186-197）

名島潤慈・杉本沙由理・金子恵理（2004）：心理アセスメントにおける描画法概観（1），山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，17，167-182.

名島潤慈・津田真裕美・船木智美・原田梨沙・津藤優香（2005）：心理アセスメントにおける描画法概観（2），山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，19，111-126.

名島潤慈・原田梨沙・山根望・杉本沙由理（2006）：心理アセスメントにおける描画法概観（3），山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，21，217-230.

名島潤慈（2010）：心理アセスメント.（鑪幹八郎・名島潤慈編著，心理臨床家の手引[第３版]，誠信書房，32-63）

中野光子（2002）：高次脳機能診断法　新訂第３版，山王出版.

佐藤昌子・木村あやの・藤崎春代（2010）：大学附属の心理相談室における知能検査を核としたアセスメントシステム―ウエクスラー式知能検査を活用した心理臨床活動における臨床心理士養成，昭和女子大学生活心理研究所紀要，12，25-38.

Shulman, K. & Feinstein, A.（2003）：*Quick cognitive screening for clinicians: Mini mental, clock drawing and other brieftest.* London and New York: Taylor & Francis.（福居顯二監訳，2006，臨床家のための認知症スクリーニング―MMSE,時計描画検査，その他の実践的検査法，新興医学出版社）

滝浦孝之（2007）：三宅式記銘力検査（東大脳研式記銘力検査）の標準値：文献的検討，広島修大論集，人文編，48(1)，215-272.

若林明雄・東條吉邦・Simon Baron-Cohen・Sally Wheelwright（2004）：自閉症スペクトラム指数（AQ）日本語版の標準化―高機能臨床群と健常成人による検討，心理学研究，75(1)，78-84.

若林明雄・内山登起夫・東條吉邦・吉田友子・黒田美保・Simon Baron-Cohen・Sally Wheelwright（2007）：自閉症スペクトラム指数（AQ）児童用・日本語版の標準化―高機能自閉症・アスペルガー障害児と定型発達児による検討，心理学研究，77(6)，534-540.